

第七回 (株) 有線ブロードネットワークス番組審議会 議事録

開催日時：平成 14 年 10 月 24 日 11:00～

開催場所：(株) 有線ブロードネットワークス渋谷ビル 9F

C 会議室

出席者 委員：小林亜星、有馬祐行、池田憲一、山本武司、渡辺英夫、青木寶久（順不同・敬称略）

放送局側：8 名

議事内容

1. 会社動向及び報告事項

2. 番組改編の報告

平成 14 年 10 月に「中高年世代を対象とした番組の充実」、「ファミリー層向け番組の強化」をテーマに、サウンドプラネット全 422 チャンネルのうち、25 チャンネルの番組改編を行った。（新番組、リニューアル番組共に含む）

3. 番組課題

新規番組「昭和ラヂオ ～美しき日本の歌たち～」について

4. 番組審議

- 「昭和ラヂオ ～美しき日本の歌たち～」内の 1 番組、「唄の散歩道」の各楽曲の解説内容についてだが、その時代を教養的に堅苦しく考えるのではなく、あくまでもリスナーが懐かしさを感じてもらえるという視点を考慮した番組づくりが大切である。
- 「唄の散歩道」の各楽曲の解説内容についてだが、ターゲットとしている世代よりも若い世代に対して、当時の情景を知るという意味で非常に価値ある内容である。
- 「唄の散歩道」の各楽曲の解説内容の中で、極端に言えば、話題が多少逸れても「歴史性」や「地域性」みたいなものを思い切って打ち出してもよいのではないだろうか。
- 「唄の散歩道」の番組内容に関して、ゲストを呼んで当時の情景を語るコーナーなどを設けても良いのではないだろうか。異なった経験をもつゲストとの対話により、番組内容のバリエーションも広がると考えられる。
- 「昭和ラヂオ」の内容と実際の使用用途との関係について、例えば病院内、老人ホーム内での共用スペース等では現在の「昭和ラヂオ」をそのまま活用し、個室などのプライベートを重視する空間では「昭和ラヂオ」で取り上げられた楽曲のみで構成した番組の放送を行うなどの施策が効果的ではないだろうか。
- 上記意見と類似する内容であるが、「昭和ラヂオ」の内容について、解説入りチャンネルと、楽曲のみを使用したチャンネルと区別することによって、用途の幅が広がりより多くのリスナー層からの支持が得られる番組になると思う。
- 「昭和ラヂオ」で使用されている音源についてだが、現在音源のない楽曲に関して復刻版等の音源を使用する際に、やむを得ず復刻版を使用しているという旨を、番組内でリスナーに伝えることも番組を発展させていく手段のひとつではないだろうか。例えば、その番組を聴いていたリスナーからの音源供給など、リスナーからの協力によるコミュニケーションによって、より番組内容が充実したものなるはずである。
- 同じく「昭和ラヂオ」で使用されている音源についてだが、技量や音質のクオリティというよりも、ど

れだけ昭和の情景を演出できるかが今後のポイントとなる。

- 「昭和ラヂオ」の再生方法についてだが、ノイズがそのまま入った状態での再生法やレコードプレーヤーの針がレコード盤にのる瞬間の音など、細かい演出が可能であれば、よりリアリティのある番組になると思う。
- 「昭和ラヂオ ～美しき日本の歌たち～」内の1番組、「うまいねどお～も！川柳道場」に関して、中高年リスナーを対象にしている番組にしては若干トークのテンポが早いように感じられたので、もう少し会話のスピードを抑えてもよいと思う。